

福岡県米麦大豆生産改善速報 8 号

令和 3 年 3 月 1 9 日
福 岡 県
福岡県米麦品質改善協会

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	3月1日～3月18日 (18日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	11.8	17.2	7.1	96.1	66.0
前年差(比)	+2.4	+2.8	-1.2	109%	70%
平年差(比)	+3.4	+4.1	+0.1	110%	104%

注) 平年は 1981～2010 年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦: (農産部) 11月18日播種、(筑後分場) 11月19日播種、大麦: 11月25日播種]

3月1日～3月18日の平均気温は平年より 3.4℃高く、日照時間は 10%多く、降水量は 4%多かった。

3月19日現在の生育は、草丈は平年に比べて小麦で 43～50%、大麦で 22～31%長かった。莖数は小麦、大麦ともに、農産部では平年より 7～8%少なく、筑後分場では 17～24%多かった。主稈葉数は平年に比べて小麦で 0.3～1.4 葉多く、大麦は農産部で 0.6 葉少なく、筑後分場で 1.0 葉多かった。生育は極めて早く、今後の気温が平年並で経過した場合、出穂期は小麦で 12～14 日、大麦で 8～12 日早いと予想される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

今後も排水対策が極めて重要である。排水溝の溝さらえ、排水口の整備を行い、速やかな地表水の排水を図る。

(2) 赤かび病防除

麦類の収量、品質に対する赤かび病の影響は大きく、防除は必須作業である。小麦と裸麦は開花期 (出穂後 7～10 日) ～開花最盛期、二条大麦は穂揃期の約 10 日後 (出穂後 12～14 日: 葍殻が抽出する時期) に必ず防除を行う。赤かび病に弱い品種 (ラー麦 [ちくし W2 号]、ミナミノカオリ、はるか二条、イチバンボシ、くすもち二条) は 7～10 日後に 2 回目の防除を必ず実施する。その他の品種についても、降雨や曇天が続く多発生が予想される場合には、もう一度防除を行う。防除薬剤は「普通作病害虫・雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(3) 穂揃期追肥

タンパク質含有率を向上させるため、ラー麦とミナミノカオリは穂揃期追肥として 10 a 当たり窒素量 5 kg を必ず施用する。本年は出穂期が非常に早く、出穂期～開花期の期間が長くなることが予想され、早めの追肥により遅れ穂の発生が懸念される。このため、追肥時期は基準より 3 日程度遅らせた穂揃期後 3 日 (出穂後 5～7 日頃) ～穂揃期後 10 日に施用する。尿素的葉面散布を行う場合には、10 a 当たり窒素量 2.5 kg を開花期と開花期後 7 日頃に 2 回施用する。

小麦においては、毎年、タンパク質含有率が低い地域や葉色の低下が著しい場合は、チクゴイヅミ等の日本めん用品種では穂揃期追肥として 10 a 当たり窒素量 2 kg を施用し、ラー麦とミナミノカオリでは 10 a 当たり窒素量 6～7 kg を施用する。

4. 農林業総合試験場における調査成績

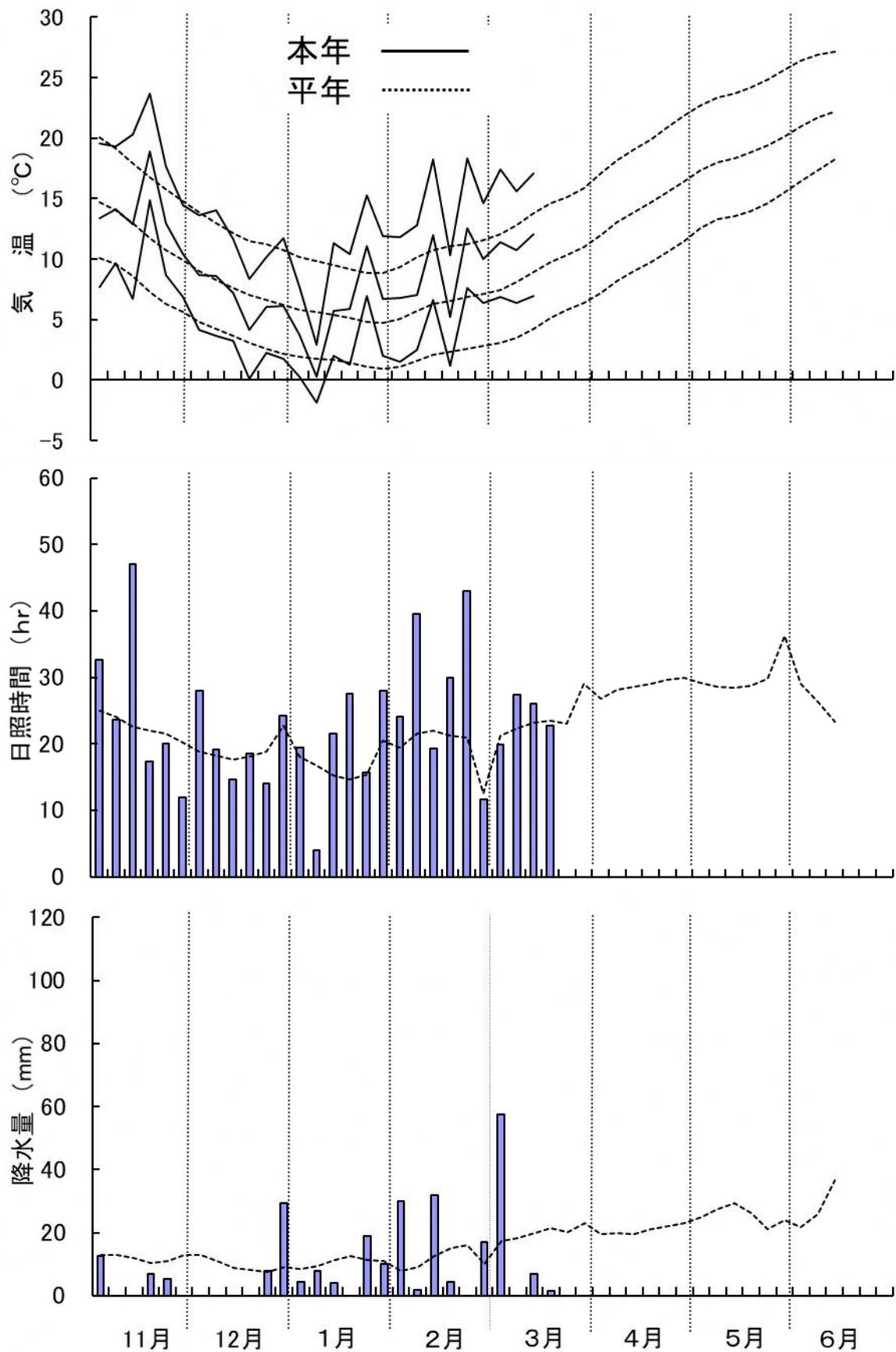
調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	3月1日			3月19日			茎立期 月. 半旬	予想 出穂期 月/日
				草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数		
				cm	本/m ²	L	cm	本/m ²	L		
農産部	11.18	チゴイヅミ	本年	43.0	784	7.5	72.9	624	8.4	2.5	3/26
			前年比(差)	84	131	-0.7	105	109	-0.6	(2.2)	+2
			平年比(差)	154	108	+0.8	145	93	+0.4	—	-12
	11.18	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	46.2	621	7.5	73.6	567	8.5	2.4	3/25
			前年比(差)	89	122	-0.6	109	109	-0.5	(2.1)	+3
			平年比(差)	158	97	+0.7	143	93	+0.3	—	-12
11.25	ほうしゅん	本年	26.0	1054	7.3	48.4	916	8.2	2.5	3/26	
		前年比(差)	64	107	-1.2	75	97	-0.6	(2.4)	-2	
		平年比(差)	128	100	+0.5	122	92	-0.6	—	-12	
筑後分場	11.19	シカネギ	本年	44.4	1040	8.8	73.0	911	10.3	2.4	3/23
			前年比(差)	104	141	-0.4	109	131	-0.2	(2.3)	-2
			平年比(差)	160	126	+1.6	144	120	+1.4	—	-13
	11.19	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	52.5	829	8.6	81.7	772	9.8	2.3	3/21
			前年比(差)	110	110	-0.2	115	112	+0.4	(2.1)	-2
			平年比(差)	172	115	+1.6	150	117	+1.3	—	-14
11.25	はるしずく	本年	32.0	1304	7.7	61.6	1252	10.5	2.5	3/24	
		前年比(差)	97	132	-1.3	99	170	±0.0	(2.4)	+2	
		平年比(差)	137	113	+0.5	131	124	+1.0	—	-8	

注1) 平年値はH22～R1年播の平均値。

2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

3) 前年比(差)、平年比(差)：草丈および茎数は前年比および平年比、出穂期および葉数は前年差および平年差を示す。

4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の予測値。過去の播種期および出芽期～出穂期の積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。



冬作期間の気象（太宰府アメダス：令和2年11月～令和3年6月）